

タイトル:

『第二回感動創造フォーラム』開催レポート

平成 25 年 2 月 15 日に、私ども感動創造研究所主催の『第二回感動創造フォーラム』を開催致しました。今回はそのエッセンスをお伝えします。



感動創造研究所では感動体験に富んだ心豊かな社会をデザインするため、社会のあるべき姿を問い直し、人の根源的感性と社会原理を紐解くひとつの試みとして、前回にひきつづき「感動」について語らうフォーラムを開催いたしました。

第二回目となる今回の感動創造フォーラムは、「時空を超えて ～観て・聴いて・感じる 感動のフォーラム～」と題し、東北の詩人や文学者たちの作品について、「語り、朗読し、演奏する」というこれまでにないユニークな表現を通して東北について様々な想いを馳せ、人と社会の関係や、「感動」の根源となる「こころ」の在り方について語り合うという新しい試みです。

第1部 ライブステージ 「時空を超えて東北を旅する」

暗闇の中から現れた新井武人さんが奏でるアコーディオンの音色は、素朴でありながらもどこかメランコリック。それをBGMに高月晶子さんによる「奥の細道」の朗読が始まります。

プレゼンターを務めるのは、九州大学特任教授の目黒実さん。目黒さんが松尾芭蕉の生涯を語ります。芭蕉は何故東北を旅したのか？そのキーワードは3つあり、それは、「能因、西行、宗祇という東北を旅した歌人達の存在」、「中尊寺含めた東北文化を興した藤原氏へのリスペクト」、「紀行文学としての歴史的大作を遺したいという芭蕉自身の文学的野心」ではないか、と目黒さん。

さらには、人の無意識下に「北方志向」と「南方憧憬」があるということで、スチュワート・リトル「北にはなにかがある」の朗読を皮切りに、話題は東北を文学的モチーフにした文学者達に移っていきます。



目黒 実 教授



新井 武人 さん

福島出身の詩人・長田弘「夜の空と雲と蛙」の朗読に続き、松尾芭蕉を研究した文学者・幸田露伴、宮沢賢治の実家に疎開した高村光太郎、詩人の山村暮鳥、宮沢賢治を天才と評した草野心平…等々。東北に纏わる様々な文学者の紹介のあと、話題はいよいよ宮沢賢治へと移ります。

童話作家としてのみならず、思想家として、宗教家として、詩人として、農学者として、教師として、様々な側面をもつ宮沢賢治

の魅力と才能、そして彼が我々に37年の生涯を通じ何を遺してくれたのか。未曾有の大災害に苛まれたいまだからこそ、我々は宮沢賢治が示唆してくれているものを感じ、そしてどんな未来を歩むべきか考えなければならないのかもしれない。

「東北が日本人にとって如何に日本の精神、教養、あるいは文学のなかで大きな位置を占めているか、ということを知り、感じる事が、この『時空を超えて東北を旅する』ということ」と目黒さん。



高月 晶子 さん

目黒さんの語りの妙と造詣の深さもさることながら、合間に奏でられる新井さんのアコーディオン、そしてミュージシャン・saoriさんのトイピアノとオルゴール、高月さんの透明感のある声に惹き込まれてしまう、そんな新感覚のライブステージでした。



saori さん

続いて気仙沼の階上中学校の卒業式の答辞と、福島県の高校の教師で詩人の和合亮一氏の詩の朗読を最後に、第一部は幕を閉じます。階上中学校卒業生・梶原裕太君の「天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていく」。その純粹で直向きな言葉に涙を誘われた方は少なくないようでした。

第2部 トークライブ



PHOTO：右から 目黒 実 教授、守法 美宣 所長

第二部は第一部でプレゼンターをお務め頂いた目黒 実さんと、感動創造研究所所長の守法 美宣のトークライブです。

第二部のテーマは「未来への贈り物」。第一部のムーディーな演出からは一転、明るい会場のなかで目黒さんの軽妙なトークを中心に進行しました。第一部に引き続き、宮沢賢治の多面的な魅力の話しに始まり、絵本、書物の魅力など話題がめまぐるしく変わり、いまさらながら目黒さんの造詣の深さに驚かされます。

そのなかで目黒さんからお話頂いたのが、「感動」を創るキーワード。それは、「Common=共に」ということ。人と共に、自然と共に、何かと「共に」いるところに感動が起こるのだ、と。更には「喜怒哀楽」隠された2つの感情、「愛」と「憎」を加え、それらの間にこそ「感動」があるのだと示唆下さいました。さらには究極の感動とは6つの感情すべてが合わさる「恋愛」ではないか、と。それに纏わる目黒さんのマル秘エピソードに、会場からは笑いが溢れ、終始和やかな雰囲気で行った第二部のトークライブでした。

最後に、今回『第二回感動創造フォーラム』に、定員を上回る皆様にご参加いただき、誠に有難うございました。また、今回ご参加いただけなかった皆様には、お詫びを申し上げるとともに、是非次回のご参加をお待ちしております。

今回のフォーラムには **130名**を超える方々にご参加頂きました。ありがとうございました。また会場を提供下さるなど様々な側面で開催を支援して下さいましたコイズミ照明株式会社様にはこの場を借り厚く御礼申し上げます。

また、第1部・第2部の参加費として頂きました、総額 **60,695円**を、経済同友会『IPPO IPPO NIPPON プロジェクト』<http://www.doyukai.or.jp/ippo/> を通じて、東日本大震災で被災された方々へ全額寄付させていただきます。

些細ではありますが、被災地の方々、また日本にたくさんの「感動」が届くことを願っております。

(文責 感動創造研究所)